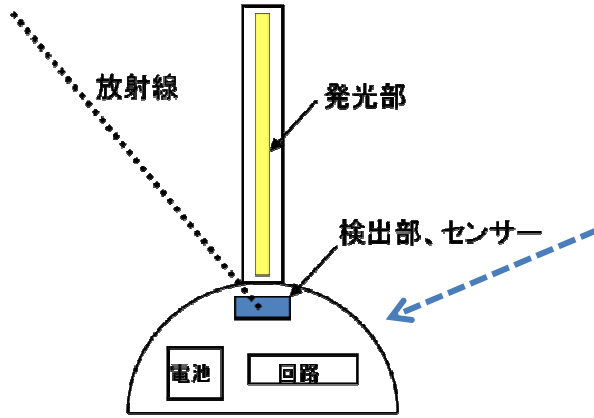


筑波大学、陽子線医学利用研究センター 教授の榮武二は、放射線を擬似可視化する装置を開発しました。使用している回路図を公開します。  
 目に見えない放射線をわかりやすく表現するため、内蔵した放射線を検出するセンサー(GM管)からの信号によって発光部を点灯させます。宇宙からふりそそぐ自然放射線や、放射性物質に対してセンサーが反応します。

【装置イメージ図】



GM管

※GM管とは、  
 ガイガー=ミュラー管。主に放射線測定装置に  
 用いられる部品。電離放射線を検知し、その回  
 数をカウントできる。

回数が多いほどに高い線量と言うことになる

【回路について】

- ・冷陰極管の電源(高電圧ユニット)をGMの高圧電源として使用。
- ・表示部も含め2セットの冷陰極管セットを使用(冷陰極管は1本)。
- ・信号の増幅部分は、秋月のGMキットの回路を参考にしてている。
- ・冷陰極管と電源のセットは、数百円でインターネット通信販売により入手。
- ・GM用電源は直流化する必要がある、パターンをカットしてダイオードを接続する。

